



U.K.
Faculty of Nursing
University of Kochi



高知県立大学 看護学部
Faculty of Nursing University of Kochi

■ 立志社中

健援隊は看護学部生のみ約50名（全学年）が高知県の各地域で活動を行っています。主な活動内容としてAED周知活動、心肺蘇生法の講習があり、活動場所としてフットサルの大会、中山間地域で講習を行いました。他にも、熱中症予防活動ではよさこい祭り期間に熱中症について記載したうちわを演舞場付近で配布し、熱中症の危険性を伝えてきました。すべての活動には県民の皆様に興味をもって学んでもらいたいという思いから、医療・看護の知識や技術を基にして作ったコントなどでの活動を行っています。健援隊という大きな組織で活動をしていくことの難しさや、地域の皆様のニーズに応える活動を行う難しさを感じています。しかし仲間と共に考え、活動を成功することで得る達成感や、1年前の自分と比べると大きく成長していることを感じています。

健援隊



サロンとは、住民の方が主役であり、やりたいことを行って住民同士のつながりを深める場所のことを言います。私たち「いけいけサロン活動」はサロンの場に池地域や池公民館、高知県立大学などの池地域全体を活用し、池地域の住民の方と交流を図っています。交流の場では、アットホームな雰囲気の中参加者全員が、自分らしくいられる場所づくりを目指しています。活動内容においても、学生と住民の方のお互いの意見を取り入れたりすることで、お互いに学び、刺激しあえる存在になるのではないかと考えています。このサロン活動を継続して行うことで最終的には、お互い池地域において身近な存在となり、助け合える関係になることを目標としています。

いけいけサロン活動



イケあい（地域災害学生ボランティアセンター）は、南海トラフ地震発生時、地域に信頼される学生ボランティアセンターを運営することを最終目標に、他学部の学生と一緒に、県内各地の地域のお祭りや運動会支援、女性や子どもにも配慮した避難所運営の検討、HUG（避難所運営ゲーム）やDIG（災害図上訓練）を使った防災啓発を行うなど楽しく活動しています。活動を通して地域住民の方々とコミュニケーションを大切にし、日頃から「顔の見える関係創り」を心がけると同時に、全国から学生を招いて、災害が起きる前に高知県の良いところを見てもらうという「未災地ツアー」を開催し、全国の学生とも連携できる活動を行っています。

イケあい地域災害学生ボランティアセンター



■ 域学共生 — 大学が地域を変える、地域が大学を変える



高知県は「課題先進県」です。少子高齢化、中山間地域問題、南海トラフ地震対策など、待ったなしの課題が山積しています。「課題先進県」から「課題解決先進県」へ。大学にもできることがあります。そのような思いから平成25年度に始まったのが「立志社中」です。「立志社中」とは、板垣退助の「立志社」と坂本龍馬の「亀山社中」からの造語で、高い志を持つ学生たちが地域の方々と協働しながら、課題解決に向けて主体的に取り組んでいます。現在、9チーム、300名以上の学生が参加しており、大学が活動を支援しています。

「立志社中」で活躍する学生たちに教えられたことがあります。学生が地域で活動すると学生は飛躍的に成長し、地域の方々も変わるのです。地域と大学が手を携え、教えあい、学びあい、育ちあいながら、地域の再生と活性化を実現したいという思いを込めて、地「域」と大「学」が「共」に「生」きていく「域学共生」という理念が生まれました。

平成27年度入学生から、「地域学概論」「地域学実習Ⅰ」「地域学実習Ⅱ」の3科目が必修化されています。地域を理解し、地域で活動することで、大学での学びの質を高めます。所定の単位を修得すれば、「地域共生推進士」の称号を得られます。地域の課題に専門職者として立ち向かう、「若き志士」たちが巣立っていきます。

学長特別補佐 清原泰治



健康管理センター長 時長 美希



高知県立大学学生の心身の健康の保持・増進を支援し、健康的なキャンパスライフを目標として、平成22年4月に健康管理センターが設立されました。「自分の健康は自分で管理する」という学生の主体的な健康への取り組みをめざして、①健康相談、②健康診断、③健康教育、④健康管理、⑤健康危機管理、⑥健康調査・研究等の事業を行っています。センターのスタッフは、専門的知識・技術はもちろん、学生さんの心に寄り添いながら、成長を促し、その力を発揮できるように支援しています。スタッフ一同、学生の身近な存在として、どのような困りごとにも対応し、利用しやすい健康管理センターになるよう、取り組んでいます。以下に取り組み内容を少し紹介します。

○健康教育講座に参加しましょう。

学生の皆さんが「自分の健康は自分で管理する」ためには、健康への関心や知識が必要になります。そこで、学内外の講師により健康教育講座を開催しています。今年のテーマは大学生のメンタルヘルスと女性の健康とからだについての講話でした。

○必ず受けましょう。定期健康診断

大学では、毎年4月に定期健康診断を実施しています。自分の健康状態を把握して日常生活を見直すきっかけになり、病気の早期発見につながります。ヘルスパスポートを大いに活用して、健康管理に役立てています。

○こんな時にセンターを利用くださいの広報やPR活動を行っています。

①けがをしたり、具合が悪くなったとき、②気になることを相談したいとき、③専門相談を受けたいとき、④定期健康診断証明書が必要なとき、⑤セルフ・ケアコーナーを利用するとき等、困ったとき、相談したいとき、心配事があるときなどはセンターへお越しください。センター職員が対応します。

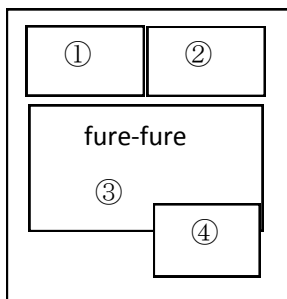
国際交流

去る5月20日、コンゴ民主共和国、ルブンバシ大学から公衆衛生学部長 Malonga Kaj Francoise 先生が高知県立大学を訪問され、学長と面談し、情報交換された後「コンゴ民主共和国の災害と健康」というタイトルで講義をしてくださいました。カジ先生は、看護師でありながら医学部長、副市長などを歴任され、多くの健康問題と政策に関わってこられた方です。講義では自然災害、紛争、IDP、HIV/AIDS、エボラと90分では語り尽くせない濃い内容で、環境問題、都市化の問題などを改めて考えさせられる時間でした。

参加した4回生からは「内戦や自然災害により多くの難民が発生しているにもかかわらず政府の政策が不十分であるため、衛生環境が悪く、HIVやコレラ、エボラなどの感染症が増加しているなど、日本では起こらないようなことが起こっているとわかりました。また、その国の文化や政治、生活背景などを知り、物事を柔軟に考え活動することが大切だとわかりました」「国、文化、環境、経済、様々な違いから、日本とコンゴ共和国、両国についての良い点、改善点が見つかったのではないかと思います。国を越えて、より多くの方が健康やかに暮らしていくために看護職者として貢献できることについて意識をもち、社会に出ていきたいと思います」などの感想が聞かれました。



表紙の写真紹介



①母性看護対象論 学内演習にて：3回生

②懇話会にて：4回生

③バスハイク（野外活動）にて：1・2回生

④バスハイク（バレーボール大会）にて：1・2回生



■ 就職支援 3回生 保健医療系就職ガイダンス

6月6日、3回生を対象に「保健医療系就職ガイダンス」が開催されました。この会は、将来の進路について具体的に考えられるように支援する企画です。内容は、講演会、パネルディスカッション、分科会の3部構成でした。講演会では、採用する側である高知医療センター看護局長の田鍋雅子氏により「こんな人材を求めています」をテーマに、臨床の場でどのような看護師が求められているのか、学生時代にどのような能力を習得しておけばよいのかなどについてお話しいただき、また、本学の卒業生でもある教員の山本かよ先生より「就職、そしてその後のキャリアアップについて」お話しいただきました。パネルディスカッションでは、養護教諭、保健師、助産師、看護師として就職した先輩方から、具体的な仕事の内容ややりがい、就職活動の実際など、さまざまなエピソードを交えながらお話しいただくとともに、学生からの質問にも答えていただきました。分科会では、希望する職種に分かれて、先輩方と自由に意見交換を行いました。実施後のアンケートでは「自分が考えていた就職までの道のりを考え直さなくてはならないような内容だった」「現場で実際に働く人の生の声を聞くことができ、より現実味をもって進路について考えることができた」などの回答があり、学生たちは、将来の進路の具体化に向けて次のステップを踏み出す機会となりました。



養護教諭、保健師、助産師、看護師で就職した先輩方



質疑応答が活発に行われました

■ サークル活動の紹介

県立サークルSociety For Everyone

私たちSFE19名は、世界90カ国以上で活動する国際協力団体オックスファムと共に、世界の貧困や不公正をなくすために活動しています。具体的には、世界の現状を知り、自分で行動を起こす体感型イベントや、中高生を対象に教育普及の重要性を伝える授業などを行っています。後期では、世界食糧デーに合わせた食糧格差体感イベントや、おいしく気軽に世界の諸問題とリンクできる、フェアトレード商品の生協販売などを進めていきます。学生はもちろん、地域の方々とも協働して、身近なところから社会を変えていきたいです。

キャンパスリーダー 2回生 木下美優



バスケットボール部



バスケットボール部「ウサギとカメ」は、4学部1～4回生の男女約40名で池キャンパスの体育館を中心に週3、4日練習をしています。年に3回大会に出場していて、大会でいい結果を残そうとそれぞれの目標に向かって明るく楽しみながら一生懸命バスケをしています。部員同士の仲もかなりいいため、先輩後輩・学部の垣根を越えつつなかりができ、より大学生活を楽しむことができます。いろいろな人といろいろな経験をすることができるため自分の成長にもつながっています。大学卒業するまでこの「うさかめ」でもっと成長していきたいです。

部長 3回生 加戸慎吾

〔ニュースレターの名前の意味〕 fure-fure 学生さんを応援する気持ちを含めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを含めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp